

『依然残る需要停滞感と先行き不透明感』

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成21年7～9月期の実績と平成21年10～12月期見通しについての調査結果をまとめた。（回答率72%）調査は3ヶ月毎に年4回行う。

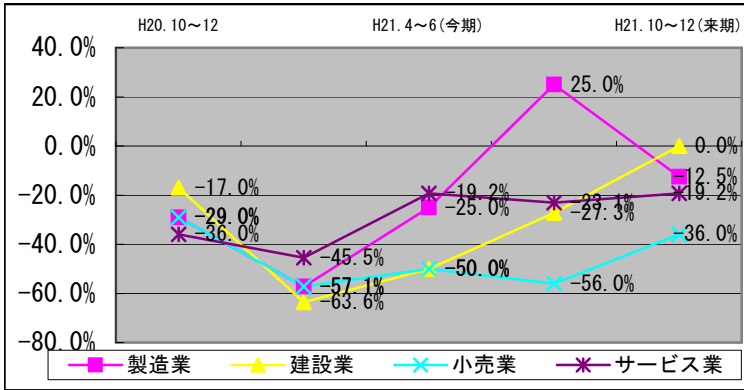
業況DI値について、前年同月比の今期（平成21年7～9月）の状況を集計したところ、業況判断DIは、製造業はプラスに転じているが、その他各産業は変わらずマイナスで推移している。売上についても、製造業のみ前期からの改善傾向が続いているおり、各業種はマイナスながらも若干上向きつつある。仕入単価と経常利益は、全産業ともにほぼ横ばいで推移している。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の5.6%、来期設備投資を計画する見通しである企業は8.3%と、設備投資に関しては依然慎重な姿勢がうかがえる。また、今期の経営問題では、「需要の停滞」が各業種とも高水準であるが、経営環境の改善とともに、受注確保や市場環境変化への対応など、競争力強化への課題が見え始めた。

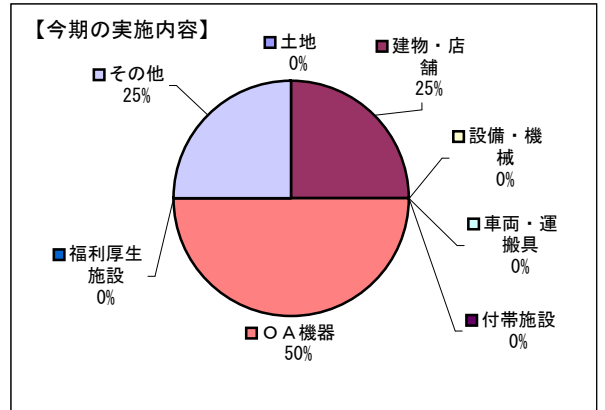
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-31%	→	-33%	→	-29%	→	4%	→	-40%	→	1%	→
製造業	25%	↗	25%	↗	13%	↗	-13%	↘	13%	→	13%	→
建設業	-27%	→	-55%	→	-64%	→	36%	↗	-45%	→	-9%	→
小売業	-56%	→	-52%	→	-28%	→	0%	→	-52%	↘	4%	→
サービス業	-23%	→	-23%	→	-35%	→	-4%	→	-42%	→	4%	→

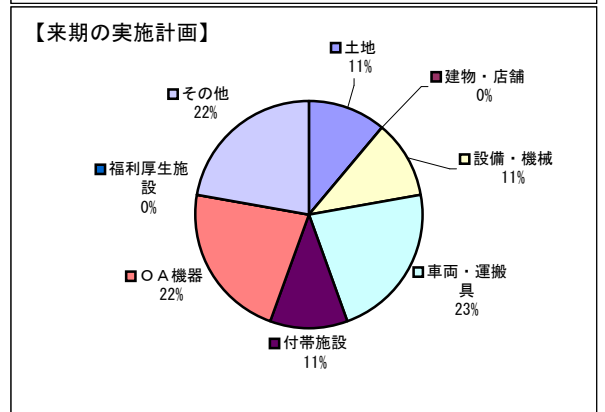
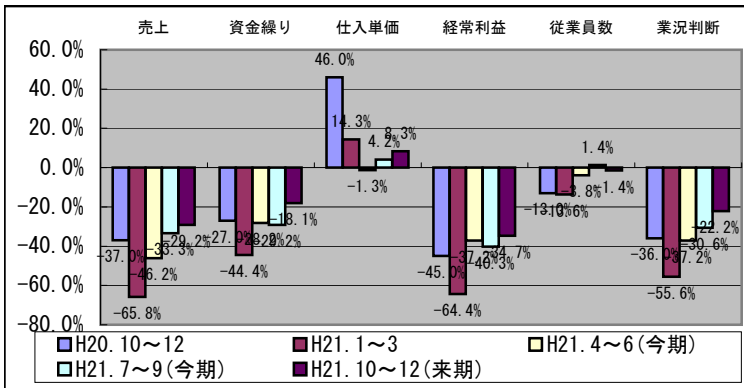
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 27.8%	請負単価の低下・上昇難 29.0%	需要の停滞 22.4%	利用者ニーズの変化への対応 23.8%
2位	製品(加工)単価の低下・上昇難 16.7%	官公需要の停滞 19.4%	大型店・中型店の進出による競争の激化 13.4%	需要の停滞 22.2%
3位	製品ニーズの変化への対応 11.1%	民間需要の停滞 22.6%	販売単価の低下・上昇難 14.9%	新規参入業者の増加 11.1%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。